

コスモ石油株式会社

新・連結中期経営計画の進捗状況

2005年11月16日

代表取締役社長：木村 彌一

常務取締役：近藤 直正，宮本 諭

本日のご説明内容

	経営環境認識と 新・連結中期経営計画の概要	1～4 ページ	代表取締役社長 木村 彌一
中期計画の進捗	2005年度上期 決算の概要	5～8 ページ	常務取締役 宮本 諭
	2005年度通期 業績予想の概要	9～10 ページ	
	部門毎の進捗状況	11～17 ページ	常務取締役 近藤 直正

◆旺盛な石油需要見込み

・中国・インド等の経済発展を基に、白油を中心に旺盛な需要。

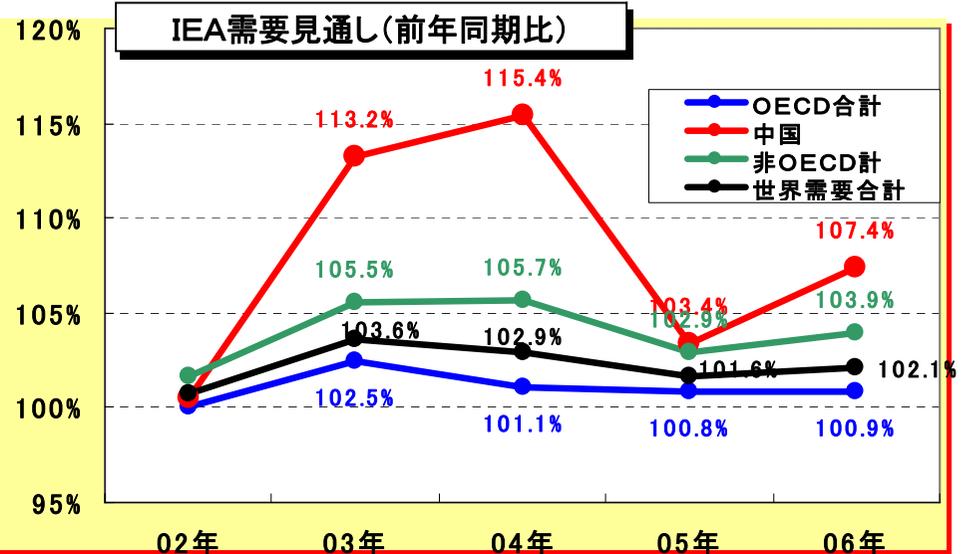
◆原油生産余力は限定的

・生産余力はサウジ(重質油)中心

◆精製能力不足

・米国製油所の高稼動(90%以上が継続)
 ・中国・インドは新設・増強の計画はあるものの、需要を賅うまでには至らず。

◆投機資金の動向



◆原油価格の高止まり

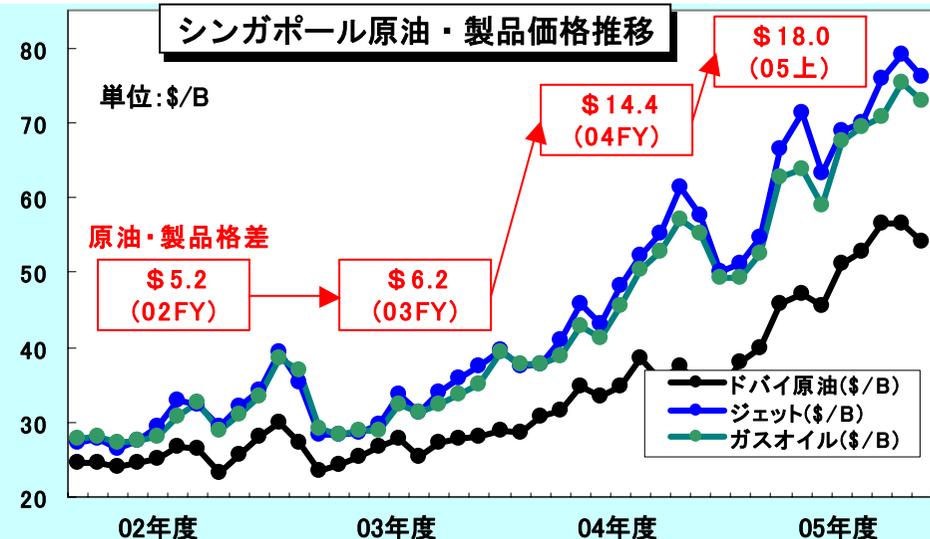
重軽格差の拡大

◆白油(石化原料含む)を中心に

製品価格高止まり

原油・製品スプレッドの高止まり

短期的な変動はあるものの、
 今後も高止まり傾向



経営環境認識②～国内マーケット動向

国内需給環境

◆マーケットの国際化

- ・製品(石化含む)の輸出拡大
- ・輸入量の減少(製品高+品質障壁)

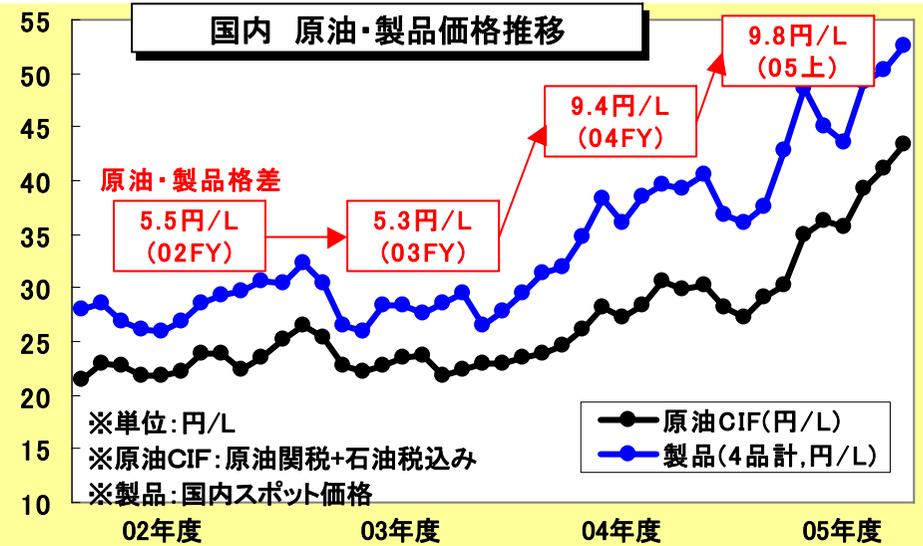
◆精製能力削減(01～03FY)の影響

- ・高稼動ながら需給環境は比較的安定。

◆黒油中心に燃転の動き

- ・総需要の減少、需要構造変化(白油化)の動きが速まる。

◆足元では暖冬の影響あり



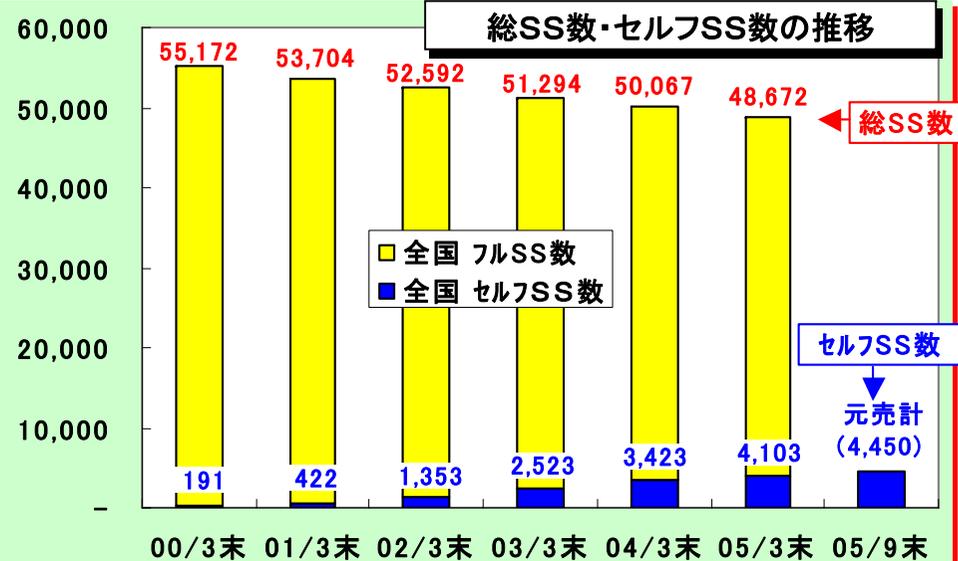
流通環境

◆各社流通政策の変化

- ・元売出資販路強化の動き

◆SS競争環境の変化

- ・総SS数の減少
- ・セルフSSの増加
- ・ユーザーのセルフ指向の強まり
- ・業態化(複合店舗など)の進展
- ・セルフSS vs 業態化セルフの競争



※データ出所: 財務省貿易統計, Rim誌, 石油情報センター, 燃料油脂新聞

基本方針

安定した経営基盤の確立

- ①収益基盤の強化...合理化から付加価値創出力強化への転換
(精製付加価値向上、流通構造改善、関係会社収益改善)
- ②財務体質の強化...収益環境変化リスク/大型投資に耐える財務体質の確立

成長戦略への転換

- ①製油所収益力の強化...投資を中心とした製油所高度化
- ②事業領域の拡大...原油開発、石油化学事業、輸出の規模拡充

取り組み内容

単体		連結	
付加価値 向上 (149億円) <small>(注)</small>	供給部門 (60億円)	石油開発事業 (58億円)	
	販売部門 (85億円)	石油化学事業 (27億円)	
コスト合理化ほか(63億円)		その他関係会社ほか(53億円)	
07FY営業利益改善幅(04FY比) ... 350億円			

(注)その他部門: 4億を含む

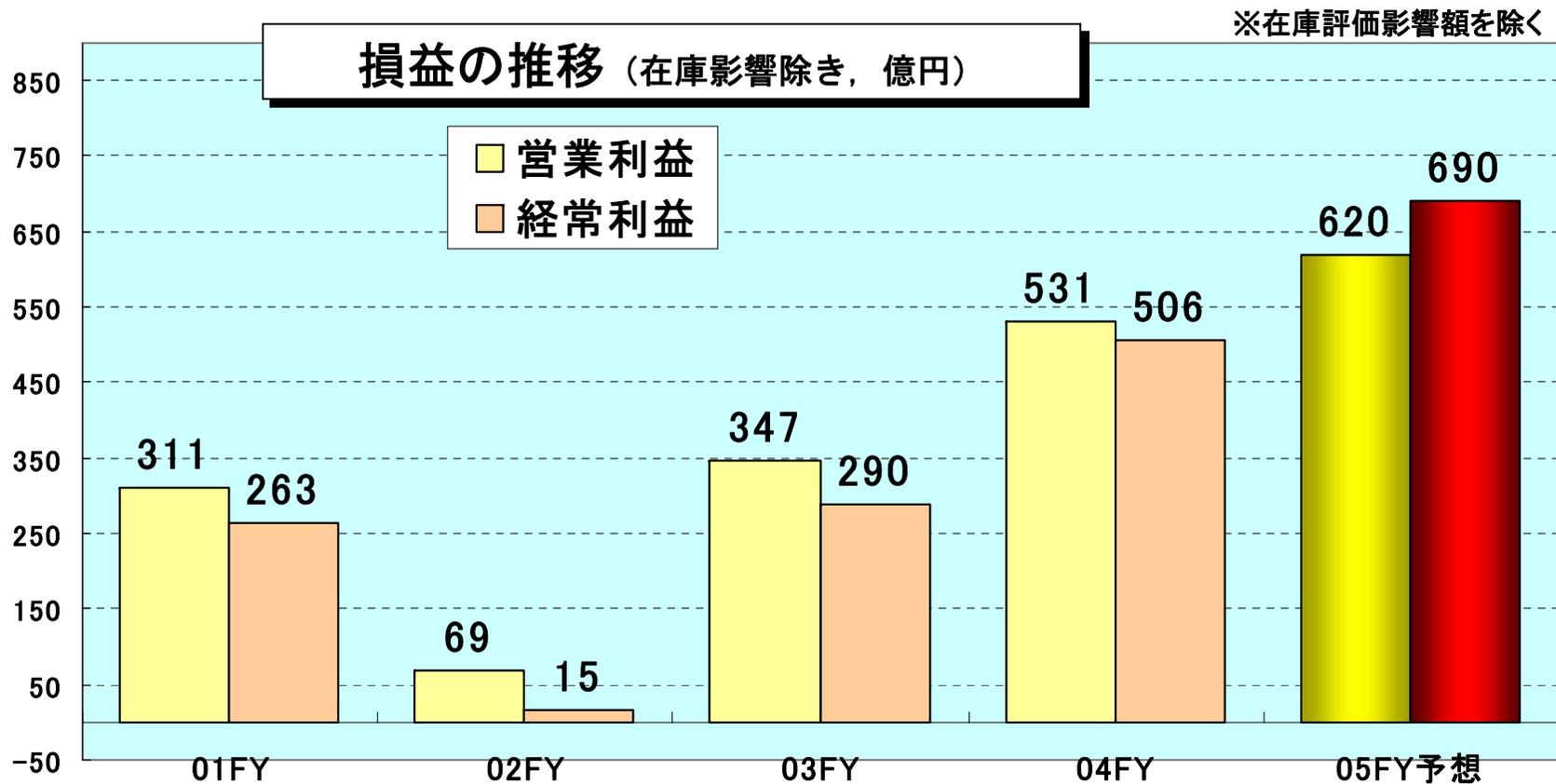
07FY連結営業利益 880億円

※在庫評価影響額を除く

中計初年度実績(損益予想)の概要

原油価格(下期) :52\$/B
為替(下期) :110円/\$
内需燃料油販売数量
(通期。前年比) :99.1%
中計効果額 :108億円
(達成率122%)

営業利益:620億円
経常利益:690億円



【中間決算】2005年度中間決算 連結 損益の概要

5

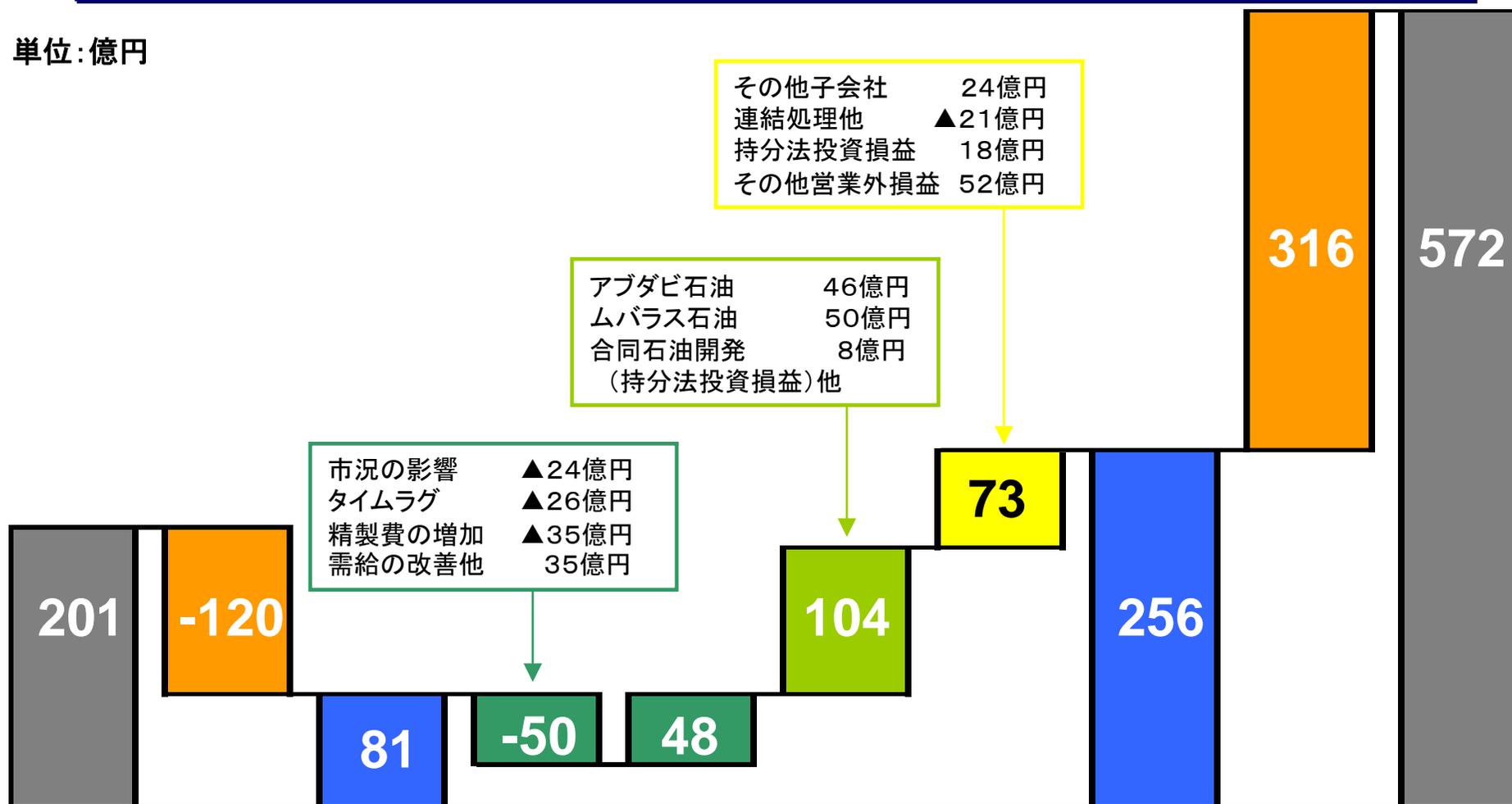
単位:億円

	実績	前年同期比
売上高	12,032	2,122
営業利益	507	289
経常利益	572	371
(在庫評価の影響額)	316	196
(在庫評価除き)	256	175
中間純利益	296	255

※原油価格、販売数量・伸び率、販売価格などについては、補足資料①を参照ください

【中間決算】連結 経常利益 前年同期比

単位:億円



その他子会社 24億円
 連結処理他 ▲21億円
 持分法投資損益 18億円
 その他営業外損益 52億円

アブダビ石油 46億円
 ムバラス石油 50億円
 合同石油開発 8億円
 (持分法投資損益)他

市場の影響 ▲24億円
 タイムラグ ▲26億円
 精製費の増加 ▲35億円
 需給の改善他 35億円

04中間 実績			05中間 実績						
経常利益	在庫評価の影響額	在庫評価除きの経常利益	石油単独		石油開発会社	その他	在庫評価除きの経常利益	在庫評価の影響額	経常利益
			市場の影響ほか	中計効果					

【中間決算】連結会社 主要連結子会社・持分法適用会社の実績

7

単位:億円

<<主要連結子会社 経常利益>>

		当中間期	前年同期比	要因
主な 石油開発 会社	アブダビ石油	102	46	①原油価格上昇(34.0→48.2\$/BBL) ②為替の悪化(108.8→105.3¥/\$ 円高)他
	ムバラス石油	50	50	①原油価格上昇(34.0→48.2\$/BBL) ②為替の悪化(108.8→105.3¥/\$ 円高)他
	合同石油開発 (持分法適用会社)他	16	8	①原油価格上昇(33.6→48.5\$/BBL) ②為替の悪化(108.5→106.1¥/\$ 円高)他
	合計	168	104	
販売子会社	8	17	東洋国際石油合併による合理化効果他	
その他主要連結会社	21	7	合理化及び市況の改善他	

※:主要連結子会社別、セグメント別実績については、補足資料③を参照ください

<<持分法適用会社>>

	当中間期	前年同期比
持分法投資損益	50	24

【中間決算】連結 C/F および B/Sの概要

8

単位:億円

	当中間期	前期末比
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 205	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 280	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	562	-
期末のキャッシュ残高	464	83

	当中間期末	前期末比
総資産	14,583	1,352
株主資本	2,810	531
株主資本比率	19.3%	2.1改善
有利子負債額(ゼロクーポン社債を含む)	5,366	388
有利子負債依存度	36.8%	0.8改善
D/Eレシオ(倍)	1.9	0.3改善

【通期予想】連結 業績予想修正①

9

単位:億円

	業績予想	前期比
売上高	25,500	3,954
営業利益	860	203
経常利益	930	298
(在庫評価の影響額)	240	114
(在庫評価除き)	690	184
当期純利益	440	176

<<業績予想の前提 >>

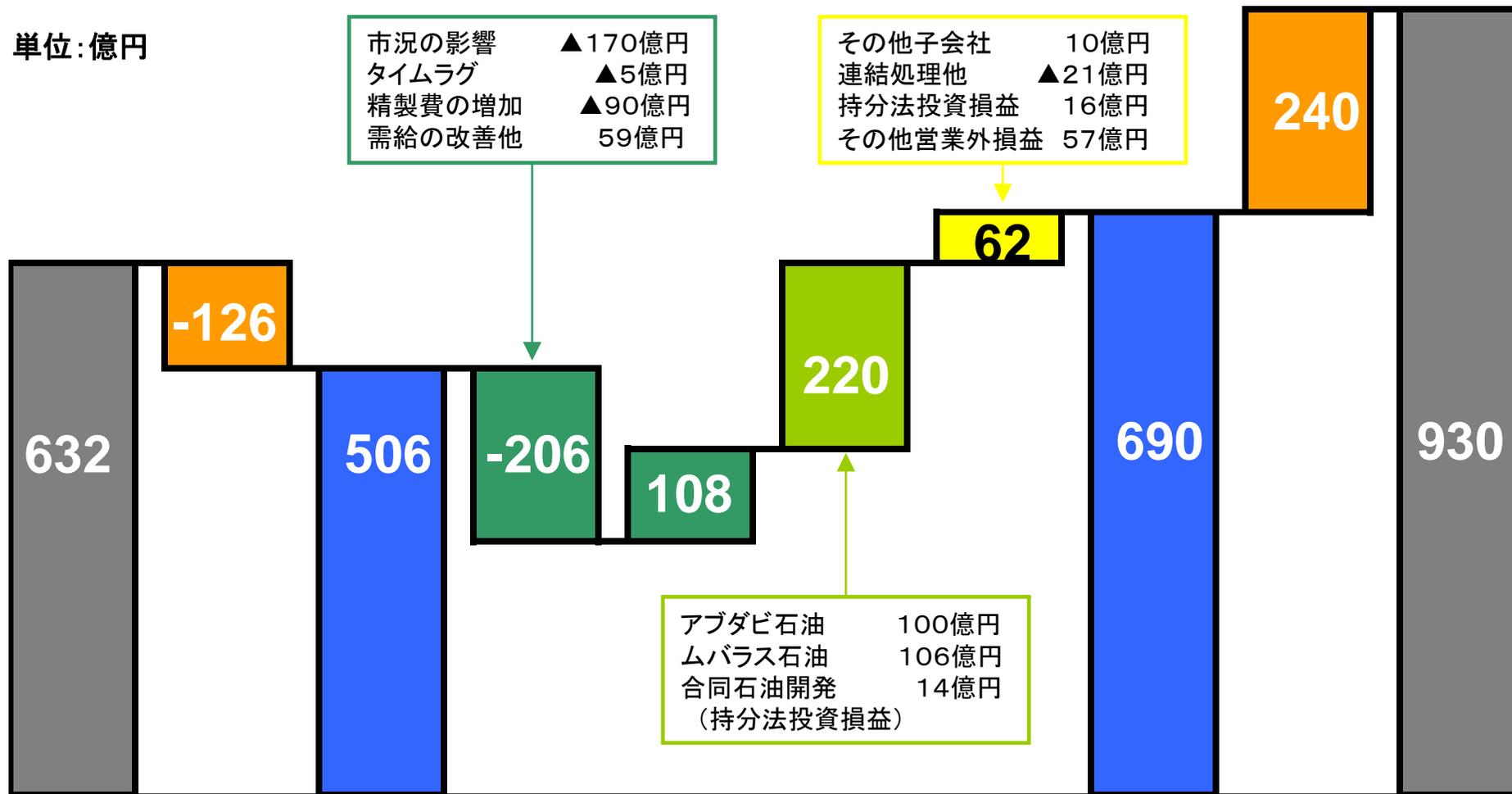
	下期
受入原油(FOB、\$/BBL)	52.00
為替(円/\$)	110.00

※1:業績予想の前提の詳細については、補足資料①を参照ください

※2:主要連結子会社別、セグメント別の業績予想については、補足資料④⑥を参照ください

【通期予想】 業績予想修正② 連結 経常利益 04年度通期実績比

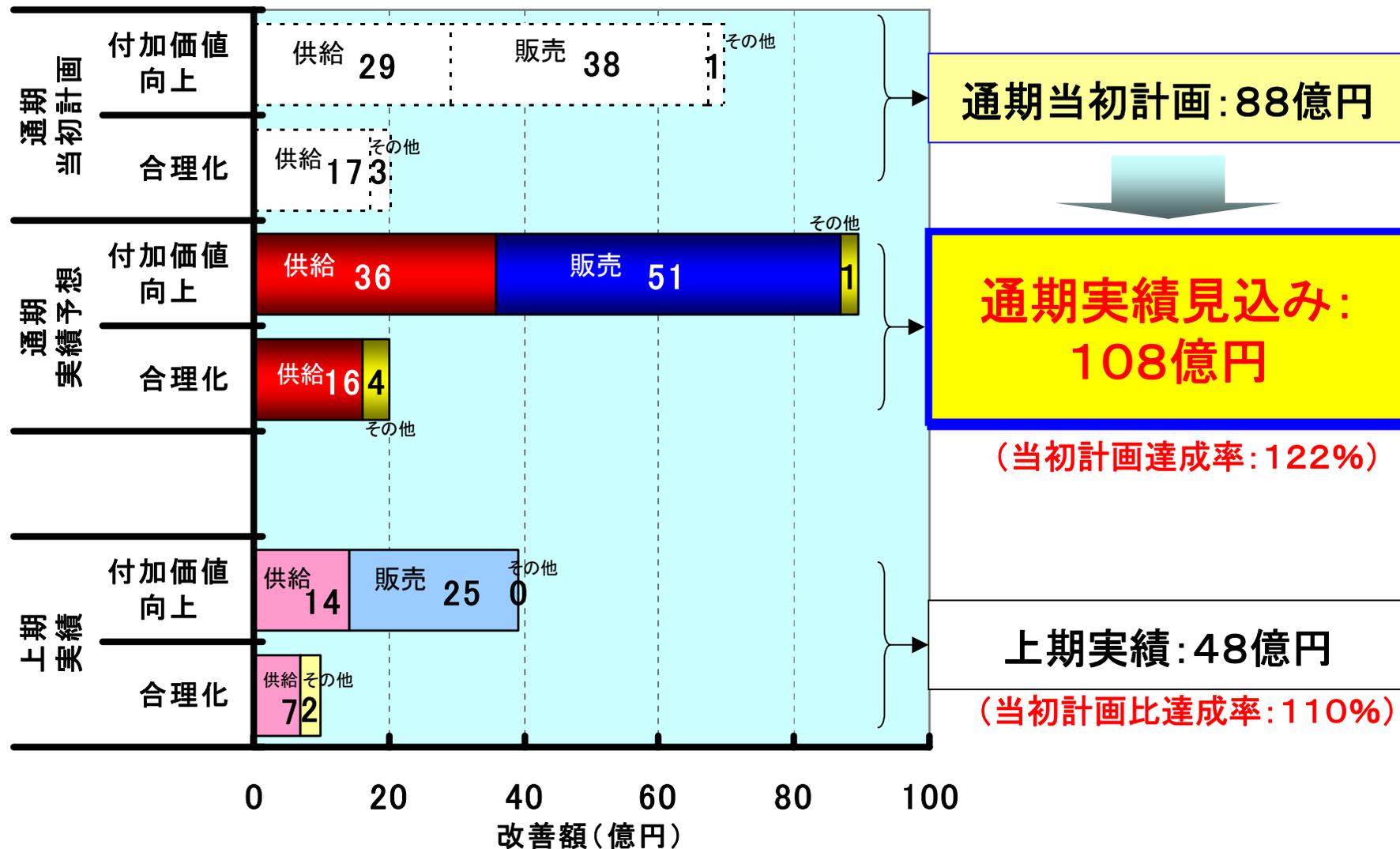
単位:億円



04通期 実績			05通期 業績予想						
経常利益	在庫評価の影響額	在庫評価除きの経常利益	石油単独		石油開発会社	その他	在庫評価除きの経常利益	在庫評価の影響額	経常利益
			市況の影響ほか	中計効果					

【中計進捗】 新・連結中期経営計画 進捗総括(単体)

※単位:億円

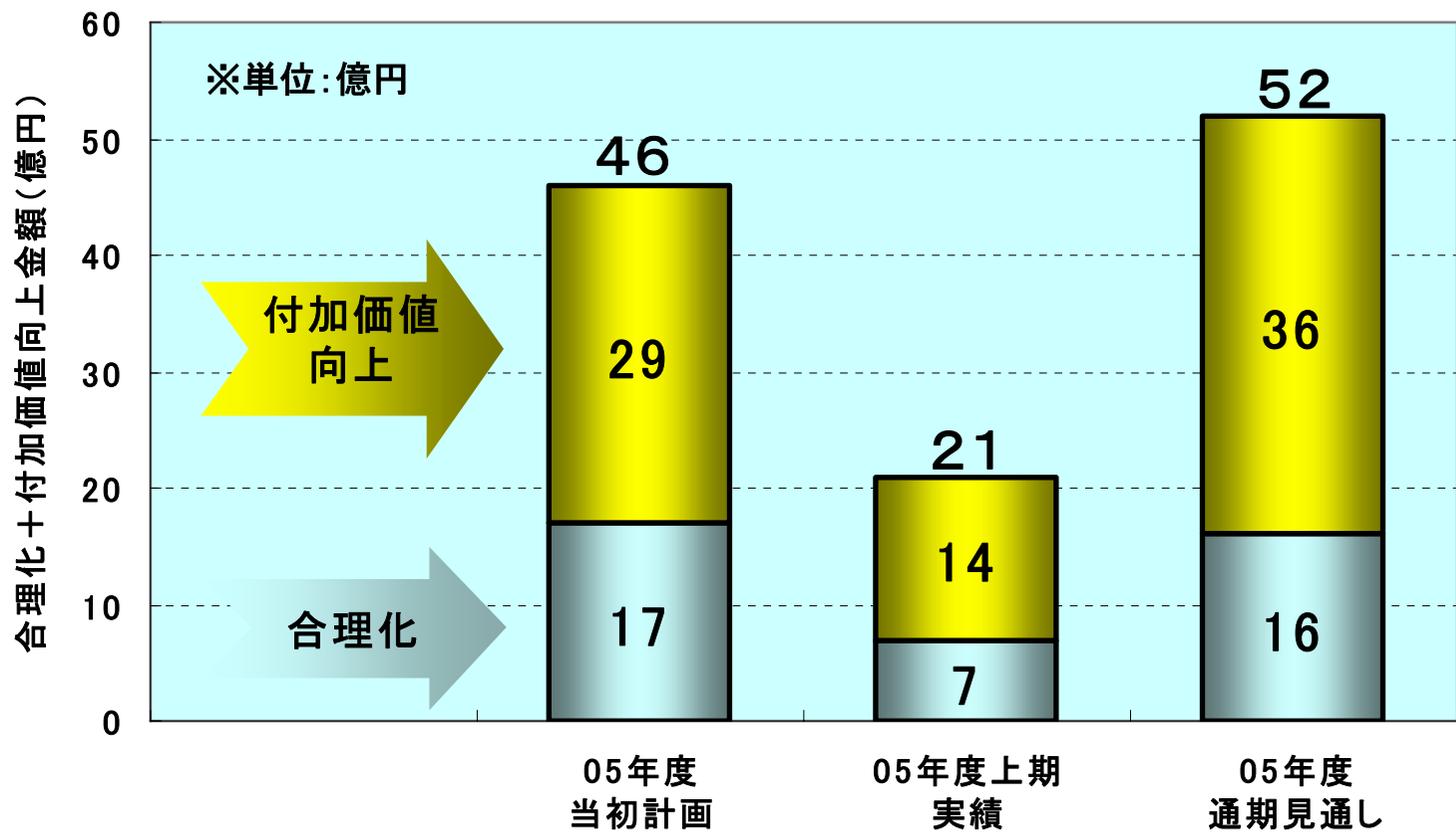


2005年度通期見通し: 52億円 (達成率114%)

主要実行項目
(従来より継続)

《付加価値向上》
・収益性改善プログラム
・MX事業 等

《合理化》
・精製コスト削減等





強化ターゲット
(従来より継続)



出資店

強化戦略の継続

- セルフSS 積極展開の継続 + 投資効率の更なる向上
- Auto B-cleネットワーク ネットワークの強化
- コスモ・ザ・カード 積極発券の継続

ノウハウの水平展開

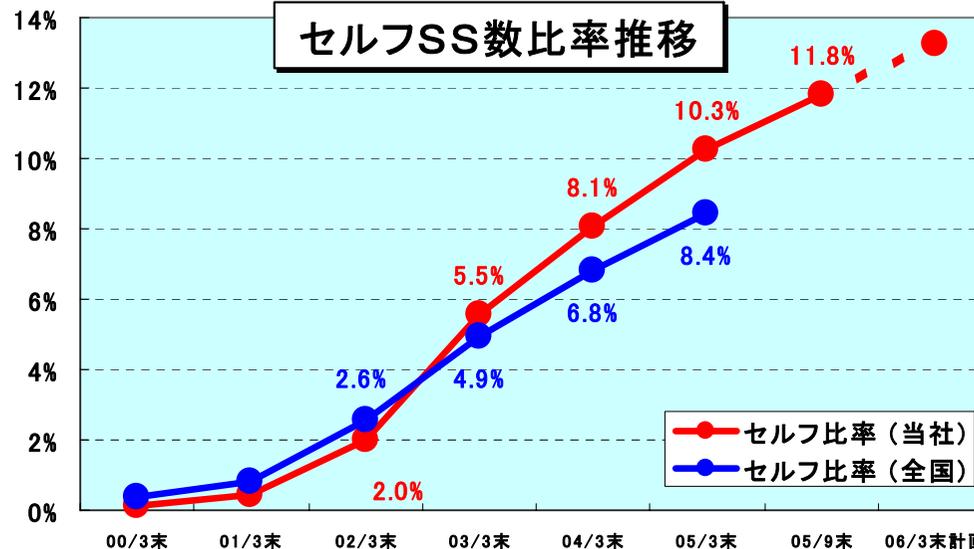
地場特約店

パートナーシップ強化

- セルフSS 積極展開 + 投資効率の更なる向上
- Auto B-cleネットワーク ネットワークへの参加
- コスモ・ザ・カード 積極発券の継続
- 特約店経営改善 店別アクションプログラムの実行促進

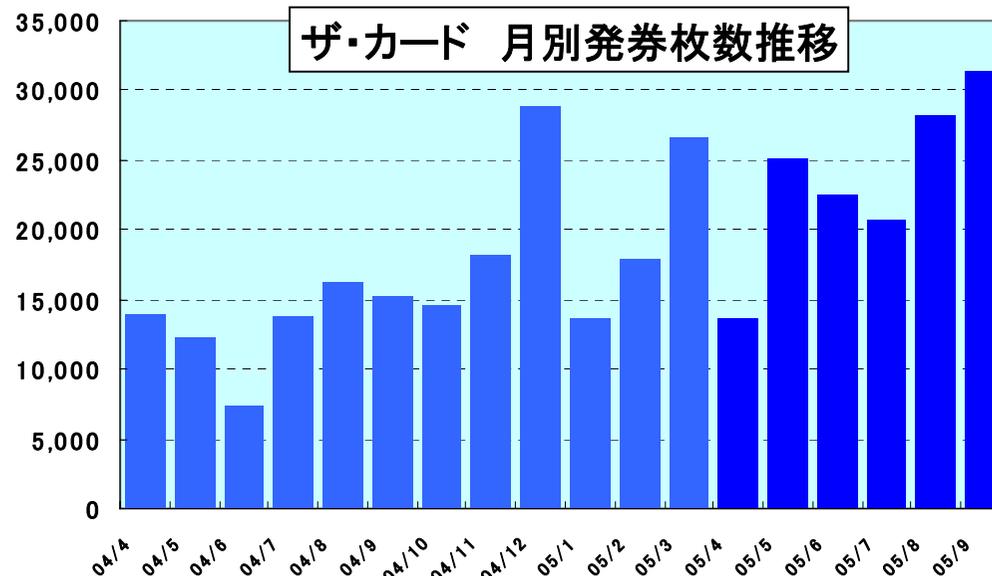
セルフSS展開

05年度上期
 SS展開数...62SS
 (セルフSS数累計545SS)
 セルフSS比率^(注1)...11.8%



ザ・カード発券

05年度上期
 有効枚数^(注2)...247万枚
 (前期末比+5万枚)



(注1)セルフSS比率...分母は固定式SSのみの合計
 (注2)有効枚数...発券枚数－脱会者数

石油開発基本方針

1. 低リスク案件への投資
2. 既存コアエリア(アブダビ・カタール)に軸足
3. 早期のキャッシュフロー回収
4. オペレーターシップ重視。技術・ノウハウ・経験の蓄積

★カタールプロジェクト進捗状況

2005年度中の生産開始を目指して現在開発作業中。
(プラットフォーム建設、生産井掘削等)。

<商業生産計画概要>

生産期間：2005年～2016年

生産量：初期 約 6,000BD
最大 約10,000BD

原油性状：A P I 約40度

出荷：カタールハル島よりカタールマリン原油として出荷



●2005年7月～

丸善石油化学(株)千葉工場内のミックスキシレン製造装置(10万トン/年)を譲受。
ミックスキシレンの製造・販売を開始。

- ・設立: 2005年4月1日
- ・資本金: 1億円
- ・出資比率:
 コスモ石油65%
- 丸善石油化学35%
- ・事業内容:
 ミックスキシレンに関する
 原料調達、製造、貯蔵、販売

●2005年度上期決算・通期業績予想

ポリエステル需要の堅調な伸びを背景に製品市況が高レベルで推移。
原油高騰による売上原価の上昇を上回る。
通期業績は、当初計画を大幅に上回る見込み。

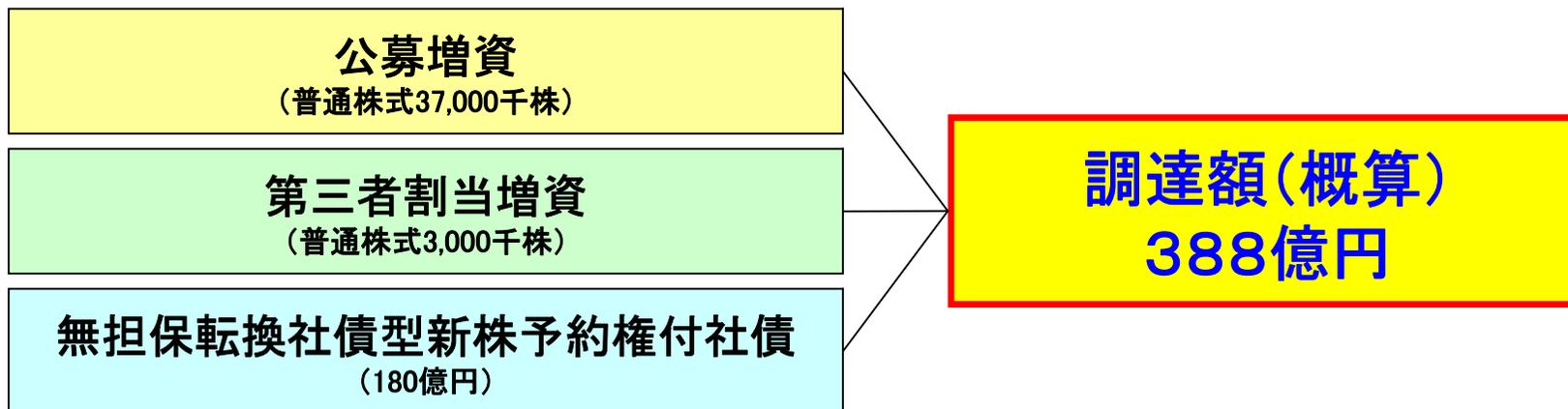
単位:百万円

	05FY上期 実績	05FY通期 業績予想
売上高	5,217	14,212
営業利益	93	289
《参考》		
当初計画 営業利益	5	77

●2006年7月目途

27万トン/年に能力増強。
(コスモ松山石油～3万トン/年～と合わせGr生産能力30万トン/年となる)

《エクイティファイナンス概要》



《資金使途概要》

単位：億円

中計 投資計画(3カ年計)		
区分	部門	金額
戦略投資	販売(セルフSS)	150
	石油開発	300
	供給(MX事業)	40
	供給(製油所付加価値向上)	400
	その他	100
	小計	990
	維持更新投資	410
	投資額合計	1,400

単位：億円

充当予定の内容および金額			
社名	内容	内容毎の 予定金額	充当額
コスモ石油	セルフSS建設	150	150
カタル石開	探鉱開発費用	57	27
CMアロマ	芳香族製造装置	19	19
コスモ石油	ガソリン基材製造装置	250	142
	ガソリン脱硫装置	50	50
	小計	526	388
	合計	526	388

補足資料

- ・【中間・通期】石油単体 実績・予想 前提
- ・【中間・通期】石油単体 中期経営計画 進捗総括表
- ・【中間決算】主要連結会社・セグメント別実績(04中間期比)
- ・【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想(04通期比)
- ・【通期予想】連結 経常利益 前回(5/17)公表比 要因分析
- ・【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想(5/17公表比)
- ・【通期予想】在庫評価の影響を調整したEBITDAの推移
- ・人員数・油槽所数・SS数推移

補足資料①【中間・通期】 石油単体 実績・予想 前提

18

		当中間期	前年同期比	通期	前提
受入原油	原油(FOB)\$/BBL	51.84	16.62	52.00	
	為替レート¥/\$	108.86	▲ 0.97	110.00	
	受入原油代(税込)¥/KL	38,827	11,267	-	
原油処理	原油処理量千KL	14,846	585	-	
	伸び率		104.1%	-	
	トッパー稼働率(CD)	85.8%	3.4	-	
	トッパー稼働率(SD※)	95.6%	3.3	-	
販売価格	販売価格(円/KL)	39,930	9,360	-	
販売数量	総販売数量(千KL)	21,639	686	45,600	
	内需燃料油(千KL)	13,930	▲ 61	-	
	内4品計(千KL)	8,665	26	-	
	ハイオクレシオ	16.8%	▲ 0.9	-	
販売数量の増減率	総販売数量		103.3%	100.7%	
	内需燃料油計		99.6%	99.1%	
	ガソリン		98.4%	99.2%	
	灯油		109.8%	105.1%	
	軽油		100.2%	99.1%	
	A重油		99.8%	99.9%	
	4品計		100.3%	100.4%	
	ナフサ		108.0%	103.9%	
	ジェット		74.8%	87.4%	
	C重油		83.4%	84.2%	

※原油・為替については
下期の前提です。

※SD: 定期整備等の影響を除いた稼働率

補足資料②【中間・通期】石油単体 中期経営計画 進捗総括表

19

項目	部門	上期				下期			通期		
		計画	見直し 計画 (8/22 公表)	実績	達成率 (計画比)	計画	見通し	達成率 (計画比)	計画	見通し	達成率 (計画比)
		(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(%)
合理化	供給	8	8	7	87%	9	9	102%	17	16	95%
	管理他	2	2	2	108%	1	2	183%	3	4	128%
	小計	10	10	9	92%	10	11	110%	20	20	101%
付加価値 向上	供給	8	12	14	164%	20	22	109%	29	36	125%
	販売	25	25	25	103%	13	26	197%	38	51	136%
	その他	1	0	0	17%	0	1	125%	1	1	60%
	小計	34	37	39	117%	34	49	144%	68	88	130%
総合計		44	47	48	110%	44	60	136%	88	108	122%

補足資料③【中間決算】主要連結会社・セグメント別実績(04中間期比)

20

単位:億円

<<主要連結会社別>>

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
コスモ石油	11,241	2,239	362	194	383	246	229	184
アブダビ石油	253	73	97	40	102	46	23	14
ムバラス石油	86	86	49	49	50	50	10	10
販売子会社	1,694	326	10	19	8	17	2	29
コスモ石油ルブリカンツ	161	10	6	0	6	0	4	0
コスモ松山石油	113	20	7	▲ 1	8	0	5	0

※中間純利益は当社持分相当額です

<<持分法投資損益>>

	当中間期	前年同期比
持分法投資損益	50	24

<<設備投資・減価償却費>>

	当中間期	前年同期比
設備投資	142	43
減価償却費	140	19

<<セグメント別>>

	売上高	営業利益	
			前年同期比
石油事業	11,796	392	221
石油開発事業	248	144	90
その他の事業	278	▲ 1	▲ 1
消去他	▲ 290	▲ 28	▲ 21

 **COSMO OIL CO., LTD.**

<http://www.cosmo-oil.co.jp>

補足資料④【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想(04通期比)

21

単位:億円

<<主要連結会社別>>

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コスモ石油	23,500	3,850	490	16	490	73	300	163
アブダビ石油	553	186	217	91	219	100	45	42
ムバラス石油	180	180	105	105	106	106	19	19
販売子会社	3,334	284	30	10	25	7	2	21
コスモ石油ルブリカンツ	329	27	11	1	12	2	8	1
コスモ松山石油	227	27	10	▲ 7	10	▲ 6	6	▲ 3

※当期純利益は当社持分相当額です

<<持分法投資損益>>

	通期予想	前期比
持分法投資損益	85	30

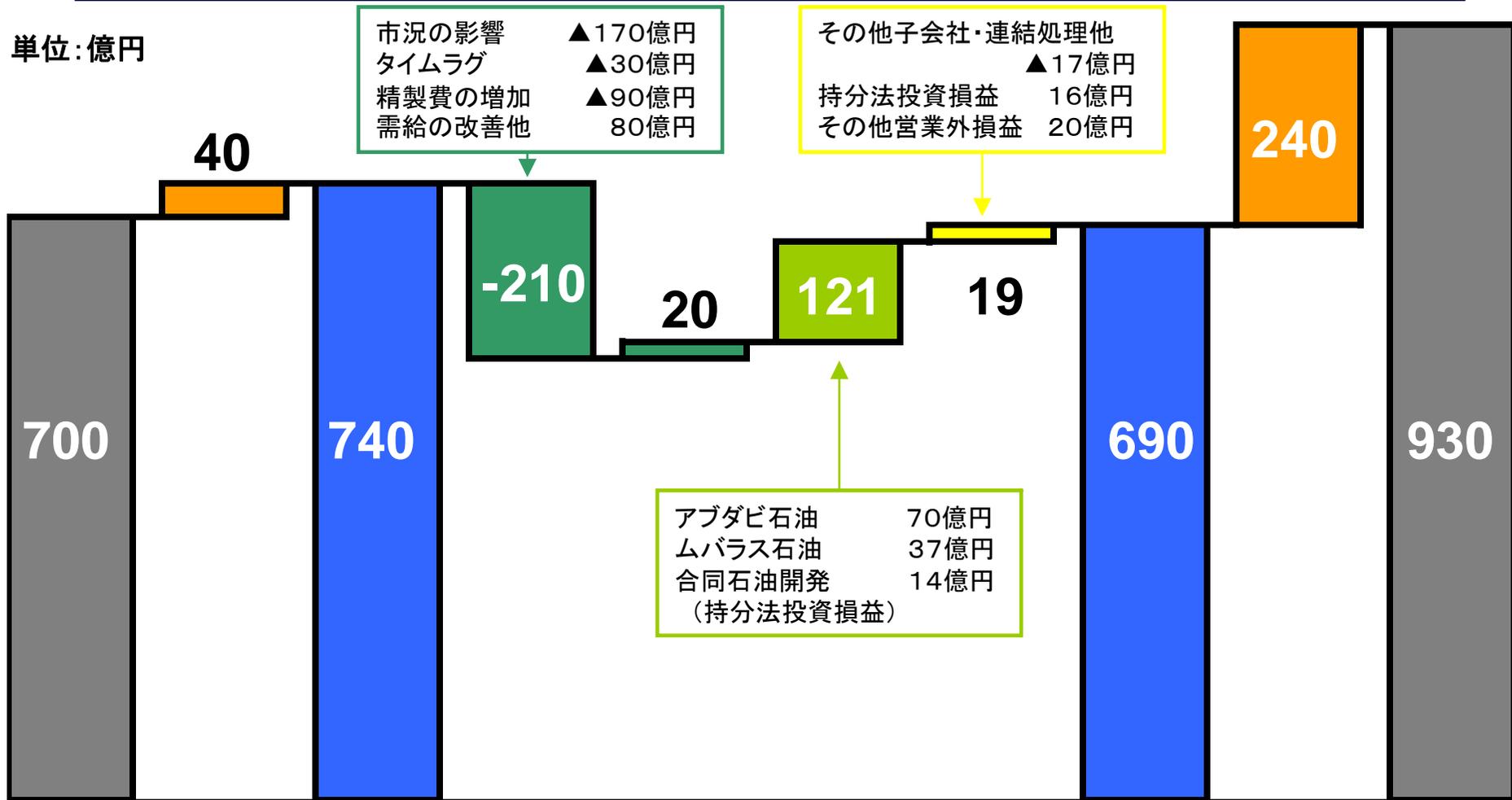
<<設備投資・減価償却費>>

	通期予想	前期比
設備投資	418	117
減価償却費	284	35

<<セグメント別>>

	売上高	営業利益	
			前期比
石油事業	24,900	570	17
石油開発事業	530	310	194
その他の事業	690	10	13
消去他	▲ 620	▲ 30	▲ 21

補足資料⑤【通期予想】 連結 経常利益 前回(5/17)公表比



前回公表 05通期 業績予想			今回公表 05通期 業績予想						
経常利益	在庫評価 の影響額	在庫評価 除きの 経常利益	石油単独		石油開発 会社	その他	在庫評価 除きの 経常利益	在庫評価 の影響額	経常利益
			市況の 影響 ほか	中計効果					

補足資料⑥【通期予想】主要連結会社・セグメント別予想(5/17公表比)

単位:億円

<<主要連結会社別>>

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
		前回公表比		前回公表比		前回公表比		前回公表比
コスモ石油	23,500	3,800	490	90	490	110	300	90
アブダビ石油	553	131	217	65	219	70	45	14
ムバラス石油	180	42	105	36	106	37	19	7
販売子会社	3,334	▲ 140	30	3	25	0	2	▲ 8
コスモ石油ルブリカンツ	329	20	11	▲ 6	12	▲ 6	8	▲ 2
コスモ松山石油	227	33	10	▲ 1	10	0	6	0

※当期純利益は当社持分相当額です

<<持分法投資損益>>

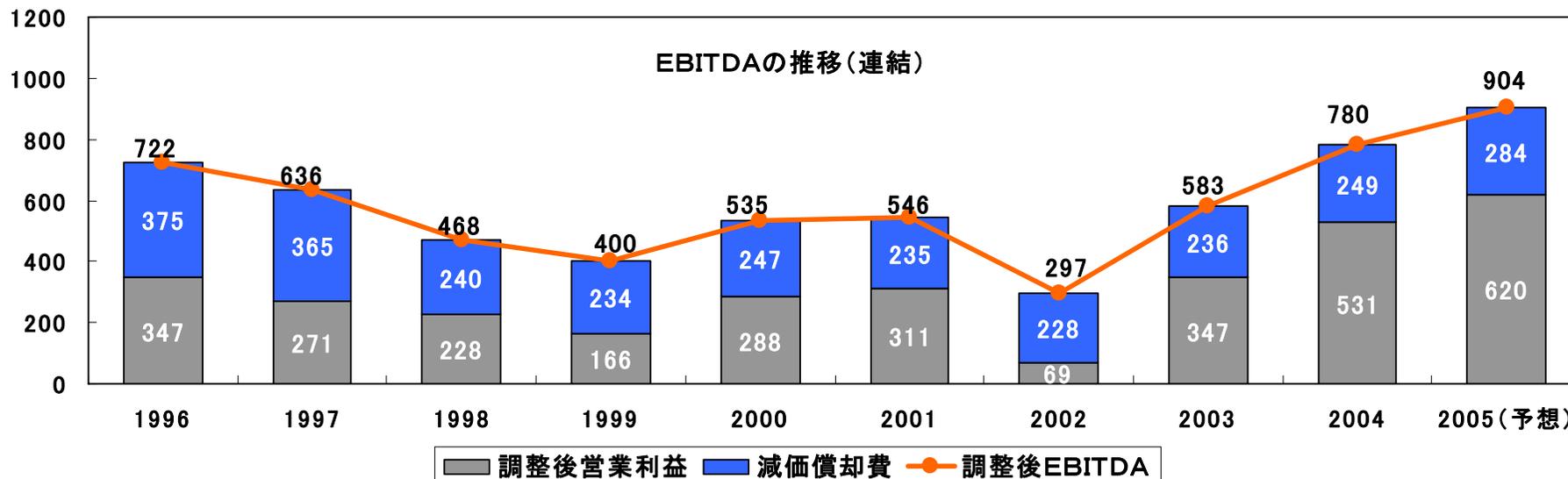
	通期予想	前回公表比
持分法投資損益	85	30

<<セグメント別>>

	売上高	営業利益	
			前回公表比
石油事業	24,900	570	90
石油開発事業	530	310	90
その他事業・消去	70	▲ 20	▲ 30

補足資料⑦【通期予想】在庫評価の影響を調整したEBITDAの推移

単位:億円



	2000	2001	2002	2003	2004	2005 (予想)
会計上の営業利益	366	221	242	252	657	860
総平均法による在庫評価の影響(符号:対利益)	138	▲ 90	173	▲ 95	126	240
調整後営業利益(会計上の営業利益-在庫評価の影響)	228	311	69	347	531	620

2000年度より在庫評価方法変更

補足資料⑧人員数・油槽所数・SS数推移

人員数推移

	98/3末	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	05/9末
石油単独	3,109	2,677	2,048	1,970	1,892	1,837	1,764	1,729	1,734
グループ	5,678	5,256	4,600	4,416	3,978	3,736	3,565	3,480	3,484

※グループ:石油単独+出向

油槽所数推移

	98/3末	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	05/9末
DT数	57	52	45	41	39	39	38	38	38

SS数推移(可搬式を含む)

	98/3末	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	05/9末
社有	1,172	1,105	1,065	1,010	977	959	930	899	894
自己	5,614	5,376	5,040	4,769	4,564	4,313	4,112	3,912	3,823
合計	6,786	6,481	6,105	5,779	5,541	5,272	5,042	4,811	4,717

上記のうち、セルフSS数及びAuto B-CleSS数

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	05/9末
セルフ	5	8	23	109	285	398	483	545
Auto B-Cle	-	-	-	217	428	652	652	481※

※Auto B-CleSSの定義を厳格化したためSS数は減少。但し、ネットワーク数(59)については変更ありません。

コスモ・ザ・カード枚数推移(万枚)

	99/3末	00/3末	01/3末	02/3末	03/3末	04/3末	05/3末	05/9末
有効枚数	135	146	162	185	213	239	242	247

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。